

2016年3月25日

国立病院機構大阪医療センターにおける
メタロβ-ラクタマーゼ(MBL)産生腸内細菌科の集積に関する
外部調査報告書（追加報告）

2016年2月16日、大阪医療センターにおいて2010年11月から12月にかけて、MBL産生腸内細菌科細菌が検出された症例4例の存在が新たに判明した。いずれもMBL産生菌であることが所定の場所に記載されておらず、検査結果のコメント欄に記載されていた。このコメント欄は、旧システムの電子カルテで作成されており、現在のシステムでは抽出できなかったとのことであった。2016年3月8日大阪医療センターから報告を受け、検討を行った。

4例の菌種は、いずれも*E.cloacae*で、全例が東9階病棟、外科の入院症例で、同時期に手術を実施され、経腸栄養が行われていた。MBL陽性例と同病棟、同病室歴があり、院内での水平伝播を強く疑う症例であった。最終転帰は、2例は死亡、2例は軽快であった。死亡例は、いずれもMBL産生腸内細菌科細菌による感染症が原因ではなく、原病の癌の進行による死亡と考えられる経過であった。

新たに判明した症例は、院内感染が起こっていた時期の症例であり、当時の院内感染が持続して起こっていたことを示している。

以上、今回の4例に関して追加報告を行う。

外部調査委員会
委員長 朝野和典

表1. 症例背景(追加報告含む)

症例数	116例
転帰*	軽快34、治癒18、転院33、死亡22、不変2、入院中7
性別	男性 77名 女性 39名
年齢	中央値 74歳 (28歳~91歳)
検出期間	2010.7~2014.2

*2014.3.13時点

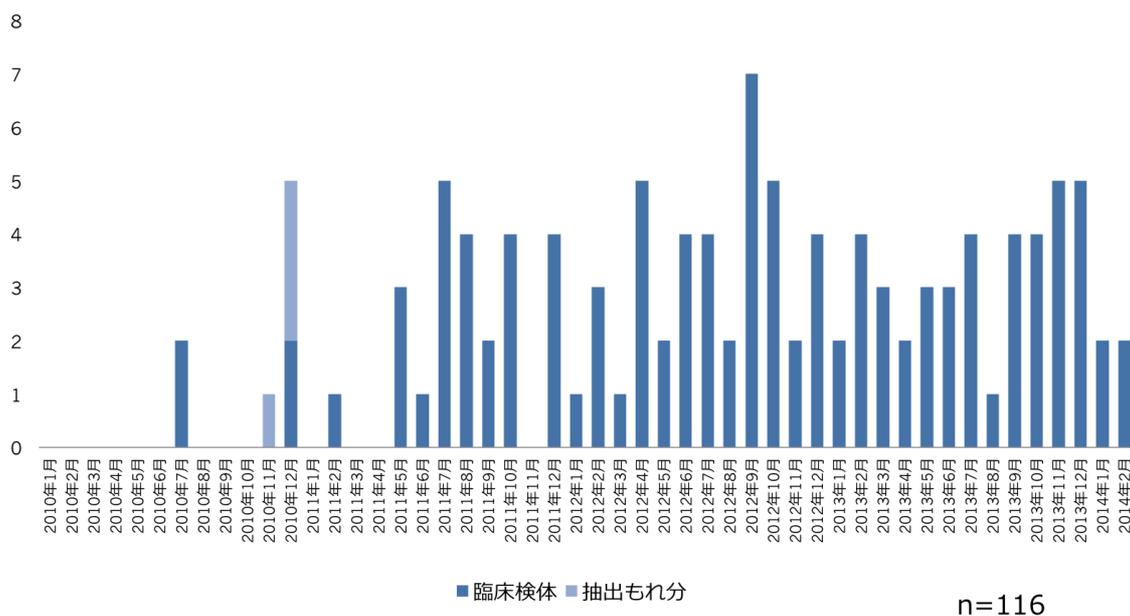


図1. 2010年7月~2014年2月のMBLs産生腸内細菌科細菌の検出推移 (追加報告含む)

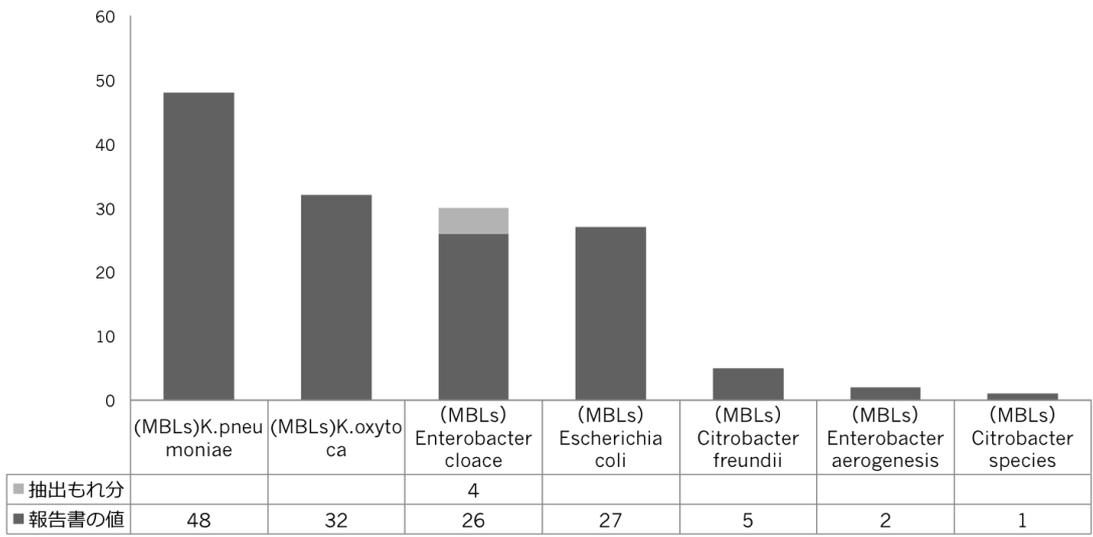


図2. 菌種別検出数(追加報告含む)

* 重複あり n=145
2010.7.1~2014.3.13